

中村欣一郎市長の

# 山椒は小粒でも...

Vol.57

## 寄り道はムダなのか



私は外出時に寄り道をするのが好きです。大きく日程を変えてまで寄り道はしませんが、せっかくならばここまで来たのなら以前から気になっていたところへ時間をやりくりして、あるいは少し足を延ばして一見に行きたいというのが私の本能です。

アナログな私ですが、寄り道に関しては頭の中はグーグルマップのようになっていきます。行き先を入力するとそこまでの道中や目的地周辺に、これまで蓄積した新聞の切り抜きや本、人との会話のメモ、テレビやラジオで見聞きしたネタなど、いつか何かで鳥羽の参考になるかもしれない、この人に会って鳥羽へ招いてみたい、など気になった情報が浮き上がる感覚です。

先日、國學院大學と観光まちづくりを通じた相互連携の協定を結びました。協定締結式に来られた学長が「最近は何で訪れたモノがスマホなどのエ

機器によってピンポイントで検索できてしまう。一方、本屋へ行ったら売り場を巡るうちに目当てでない本にも目が行き手に取ったりする。そこから違う世界が広がったりする。ピンポイントでモノが見つかるのは便利だけど豊かさや面白さという面では物足りない。いわゆる寄り道こそ人生を豊かにするんだよ...」といったようなことを仰り、私の心も我が意を得たりと盛り上がりました。

ところで、私の最近の大きな寄り道を紹介します。海女文化の紹介と観光PRで3年前にフランスを訪れた時のエピソードです。訪仏する直前の新聞記事で、鳥羽市の友好都市である兵庫県三田市のアーティスト新宮晋氏が、レオナルド・ダ・ヴィンチ没後500年を記念してダヴィンチゆかりの古城・シャンボール城で風や水の力で動く作品展をするという情報を知りました。ちょうど私たちが訪仏する時期と会期



フランスのシャンボール城と展示された黄色と白色のモニュメント

が重なっていました。

「ご本人に「もしフランスに滞在中なら」と三田市と鳥羽市のご縁をお伝えし、突撃アポを取つてみると「パリ市内のオペラ座の前のカフェでお話ししませんか」と返信があり、ご夫妻と歓談の機会をいただきました。彫刻家である一方、絵本作家でもある新宮氏は開口一番、今構想を練っている途中の絵本「サンダリーノどこから来たの？」を熱心にご紹介くださいました。なんと主人公サンダリーノは海賊の末裔だということです。九鬼水軍のイメージも片隅にあるとのこと。一時間も片隅の邂逅でしたが、このご縁をまたいつかどこかで活かせる日がきつとやってくる予定です。



絵本「サンダリーノどこから来たの？」



Vol.214

市民課人権・市民交流係 ☎ 1126

### 『キッズゲルニカ』

パロピカソの絵画「ゲルニカ」は、スペイン内戦中の無差別空爆がきっかけとなり生まれました。この作品はキャンバス上に描かれており、運搬することができないため、これまでパリ、ロンドン、ニューヨークなどで展示されています。

キッズゲルニカ国際こども平和壁画制作プロジェクト(以下「キッズゲルニカ」)は、「ゲルニカ」と同じサイズ(3.5m×7.8m)の巨大なキャンバスに、子どもたちがさまざまな技法や材料を用いて平和をテーマとした作品を制作する、国際的なアートプロジェクトです。「キッズゲルニカ」制作の過程で「ゲルニカ」が誕生した背景に触れ、ワークショップで平和について話し合うことは、異文化理解や多文化共生を考えるき

っかけとなります。世界中で多くの作品が制作されることで、地球全体をキャンバスにして、平和の精神を表現しています。

冷戦下で東西ドイツを分けたベルリンの壁や、異民族の侵攻などを防ぐために築かれた人口壁、万里の長城など、壁には境界線や隔たりといった意味がありますが、「キッズゲルニカ」もゲルニカと同様に壁ではなくキャンバス上に描くことで、どこでも持ち運び可能となり、「隔たり」を取り除く象徴となっています。私たちが願う平和もまた、国家・人種・宗教・文化などの「隔たり」をなくすところから始まるのではないのでしょうか。

今年は戦後77年を迎えます。平和の尊さや反戦の願いは、さまざまな形で若い世代へ託されています。戦争の苦しみを二度と繰り返さないため、また、平和への想いを繋げていくために、平和について考えてみませんか。

